

■高校野球のケーススタディー（第15回）■



高校野球のケーススタディー
～こんなプレイどうなるの？～

一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

○ イニング初め、マウンドに上がった投手に交代が告げられたようですが・・・

7回表、インニングの初めにそれまで出場していた投手がマウンドに上がり、準備投球を始めようとしていました。

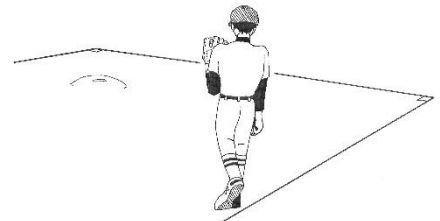
そのとき、守備側のベンチからマウンドの投手に向かって、「投手交代！」という声が聞こえてきました。通告のため、伝令の選手も球審のところに来て投手の交代を伝えています。

さて、このケース、すでに出場していた投手がマウンドに上がっていますが、この時点で投手交代はできるのでしょうか。

これは昨年11月ある高校の練習試合で実際に起きた事例です。ルールの側面から見ていきましょう。

公認野球規則 5.10(i)を見てみると、

「すでに試合に出場している投手がインニングの初めにファウルラインを越えてしまえば、その投手は、第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。(ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。)」と規定されています。



この規定は、ブルペンの救援投手に少しでも長く投げさせるなど、守備側の意図的な時間稼ぎによる試合の進行遅延を防ぐため、2013年に追加された条文となっています。

この規定によれば、上記の事例の場合、出場していた投手はすでにファウルラインを越えてマウンドまで行っていますので、少なくとも第1打者に対しては投球しなければならないこととなりますが・・・。

高校野球では「高校野球特別規則 12」において、次のように定められています。

「規則 5.10(i)の取り扱いについては、高校野球の実態から鑑みて試合中に混乱を招く可能性があることから、規則適用除外とする。」

このように、高校野球では5.10(i)の規則適用が除外されていることから、上記のケースにおいて球審は、投手交代が可能と判断して通告を受け、投手を交代させました。

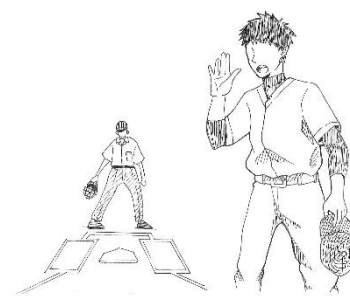
他の野球の団体では、投手交代に際し、監督自らが直接、マウンドに行ったり、球審に交代を通告したりします。

しかしながら、高校野球では、監督がグラウンドへ出ることができないとされており、投手交代によ

る通告などすべて伝令を通じて行っていますので、選手交代に関しては、ベンチ内の意思疎通や連携が重要になります。

【参考】

「先発投手と救援投手」に関しては、次のような投球義務の規定があることを覚えておきましょう。



《先発投手》

球審に手渡された打順表に記載されている投手（先発投手）は、第1打者またはその代打者がアウトになるか一塁に達するまで、投球する義務がある。(規則 5.10(f))

《救援投手》

ある投手に代わって救援に出た投手（救援投手）は、そのときの打者または代打者がアウトになるか一塁に達するか、あるいは攻守交代になるまで、投球する義務がある。(規則 5.10(g))

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：飛田 紀香さん（73 回生）坂田 朋葉さん（73 回生）
イラスト：桂 楓杏さん（2 年） 日下部 心咲さん（2 年）